日本語基本語彙

東京
國際文化振興會
2604

日本語基本語彙

國際文化振興會
2604

昭和十九年六月一日印刷
昭和十九年六月五日發行

「日本語基本語彙」

賣價九圓五〇錢

編輯者　岡本禹一
東京都麴町區丸ノ内二丁目十六番地
財團法人　國際文化振興會

發行者　黑田清
東京都京橋區木挽町一丁目二三番地

印刷人　名取洋之助
東京都京橋區木挽町一丁目二三番地

印刷所　國際報道株式會社
東京都麴町區丸ノ内二丁目十六番地

發行所　國際文化振興會
會員番號　二一〇〇三八
東京都神田區淡路町二丁目九番地

配給元　日本出版配給株式會社

承認番號　カ六〇〇五

本會は，日本文化を海外に宣揚するため，日本語普及の必要を認め，昭和十二年九月以來數次にわたり，その協議會を催し，また日本語辭典の編纂を試みようとしたこともあつたが，その後滿洲事變・支那事變と共に，益々日本語普及の急務であることを痛感したので，昭和十四年十二月，委員を依囑して，日本語文典・日本語讀本・日本語辭典などの編纂事業を計畫すると共に，まづその基礎として，特に讀本・辭典編纂の前提として，必要な基本語彙の調査，選定に着手した．

この「日本語基本語彙」はその委員會の調査報告の主要部分をなすものである．

今日またいやが上にも加へられた日本語普及對策の要望に對へて，本資料がその一助にもなればまことに幸である．

昭和十八年十月

財團法人　國際文化振興會

基本語彙選定の方針

この日本語基本語彙の選定にあたつて採つた方針の主なものを箇條書きにすると，次ぎの通りである．

1. 本會の基本語彙選定の目的は，外國人に現代日本語を學習させることにあるのであるから，日本語の合理化，簡易化を對象とするやうな態度をさけた．また現代日本語への手引としての基本語彙であるから，整理，改善による純化といふ國語運動の立場にも傾かず，ありのままの現在の日常普通の日本語の基本語彙を採ることに努めた．そのため，理論的には好ましくないもの，不要と思はれるものもいくらか採つた．
2. 基本語彙の漢字に對しても，同じ様に必要と思はれるものは，現在あるがままを認めるといふ相當自由な態度を採つた．制限などによつて現代日本語の學習が不自然なものになることをさけるためである．
3. 基本語彙をオグデンの "Basic English" のやうに一定數に限られたものにするか，それとも學習上の便宜として，第一次の基礎になる語彙の標準とするかについては，後者に從つた．
4. 基本語彙の利用者の對照を，兒童や教育のない人よりも，相當の年輩の教養のある學習者とした．
5. 日本語においては談話語彙と讀書語彙との間に相當大きな開きがあるが，出來るだけ共通なものをとり，その中の一つをとる場合は，對象とする利用者の關係で，どちらかといへば談話語彙よりも讀書語彙の方に重點をおいた．もちろん談話語彙でも使用範圍の廣いものは並行して採つた．
6. 基本語彙は性質上，價値の高いものが少數であることが好ましいが，そのために不自然なものにならないやうに心がけた．語のニュアンス(色合)などもある程度犠牲にしなければならないが，簡易性，合理性を重んじて，これを無視するやうなことのないやうに努めた．このために一見重複すると思はれ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

るものでも，考慮の結果採つたものがある．

7. 一語で多くの意味をもつてゐるものは，理解に困難であるから，一語一義主義を採ることも考へられるが，さうすれば，意味の曖昧さをさけることが出來るけれども，そのために日常最も多く使ひなれてゐる語の大部分が失はれ，文體もまた不自然なものになる．一方一語多義の語は，はじめ理解に骨が折れても，一度學習してしまふと，使用範圍が廣いために，非常に便利であるから，選定語彙はその中心的，或は代表的な意味により，派生的な意味は派生語，合成語，實例によつて說明して，それを採ることにした．

8. 語彙選定にあたつては，基本語彙と思はれるものも，次ぎの規準によつて省略，保留した．

イ．皇室，宮中に關するもの

ロ.* 古語，特殊語，俗語

ハ.* 專門語（術語）

ニ．固有名詞，稱號，位階，勳等

ホ．高次の敬語

ヘ.* 日本的な事物の名稱

ト．數詞，諸等數の單位名

チ.* 時に關する名稱（年號，月，曜日，十干，十二支など）

リ.* 身體，衣食住，親族，動物，植物，鑛物などの名稱

ヌ.* 擬態語，擬聲語，感嘆詞，挨拶語

（註）* 印は特異的なもの，特殊的なものを除き，全般の均衡上採り入れたものもある．また，その中のあるものは，終りに附錄として添へることにした．

語彙選定の具體例

(1) 同意語，類語について

イ．合理化，簡易化をめざし，語彙制限を目的とするものではないから，使用範圍や頻度の大きいものは，同意語や類語も採つた．

例．○大抵，大概，殆ど，多分，大體

○必ず，きっと，ぜひ

○あぶない，危險

○心持，氣持

ロ．同意語といつても，意味内容の一部を共有するものが多い．從つて，非共有部に對しては，他の語をもつて代用することが不可能であるから，重複して採つたものもある．

例．○片附ける，整理

○少し，僅か

○發達，發展

○方，方向，方角

ハ．論理的に同意語であつても，讀書語彙と談話語彙，その他使用の場所が異るものはとつた．

例．○扱ふ，取扱ふ

○ところ，場所

○命，生命

○支度，用意，準備

○爭ふ，競爭する

ニ．名詞形を採るために，わざと同意の漢語を採つたものもある．

例．○食べる，食事，食事する

ホ．反意語，對語であらはすことの出來るものは採らない．

ヘ．並用の同意語は合議の上便宜の一つ，またはいくつかを採つた．（カッコの中は採らない）

例．○あした（あす）

○じ（もじ，もんじ）

○とにかく（ともかく）

○てすう（てかず）

(2) 相當高次と思はれる語について

イ．選定の標準は，原則として，その語に對する難易感でなく，使用範圍と頻

度であるあるから，基本語彙としては相當高次のものも採つた．

例．○直接，間接；矛盾；積極的，消極的

ロ．一般文化部門における基本語彙は，日常的に見て高次のものも採つた．

例．○主觀，客觀；意思，印象，文化，現象，形式

ハ．頻度の低いものでも，範疇的に必要なものは採つた．

例．○平方，立方；體積，立體，液體

ニ．高次でも，それに代るべきものがあまりに俗語的なものは採つた．

例．○躊躇

ホ．日常の現代日本語を標準として，國語純化の主張をもることをさけた．（カッコ内はとらない）．

例．○俳優（役者）；映畫（活動寫眞）；劇（芝居）

要するに語彙は，言語の斷片的な一要素であるのにすぎないから，基本語彙の活用は，基本文法，或は語法，基本文型などと相俟ち，相扶けて，はじめてその機能を發揮することが出來るものであつて，この基本語彙だけを教授し，學習すれば，それでたりるといふものではない．

さらに別な言葉でいふなら，この基本語彙は，日本語の教授者や教科書，讀物の編輯者などへの參考資料であつて，これがすぐ辭典の代用をなすものでもなければ，教科書となるものでもない．

ついでながら，讀本・文典・辭典などは，本會において，既にその一部を完成し，或は着手，進行中であるから，それらと併せて利用していただきたい．

なほ斷るまでもなく，この基本語彙は完全なものでなく，この試案といふ程度のものである．また基本語彙それ自身も時代と共に動いて行くものであるから，今後機會のある毎に改訂して，少しでもよいものにして行きたいと思つてゐる。お氣付の點など，御教示を賜はることが出來ればありがたい仕合せである．

そへ書き

語彙調査の目的

語彙調査の目的は，これをいろいろの角度から見ることが出來るが，どんな語彙がどんな程度に用ひられてゐるかといふことを知ることが最大の目的であり，語彙調査の目的は，それにつきるといつてよく，それから派生的に次ぎのやうな目的をもつておこなはれる．

1. ある言語の學習者は，その言語の少數の基本語彙を知り，これを習得することによつて，社會に流通する主要な語彙を身につけ，基本的に價値の低い語彙の習得に無用の努力をさけるため．
2. 教授者がその言語教授に手心を加へるため．
3. 教科書・讀本などの編者が語彙の基準を決め，最低限度の標準を得るため．
4. 辭典の編纂，改善に資するため．
5. 日常語彙の系統を知り，國語改善に資するため．

以上は對象を國内においた場合であるが，これらの殆どすべては國外に國語を普及，進出させる時にも適用することが出來る．

これを本會が本事業を計畫した目的についていへば，日本文化の海外宣揚のために，日本語の海外普及と，そのための日本語讀本・讀物，特に日本語辭典の編纂にある．

語彙調査の價値

語彙調査の價値は，目的について述べたことを達することが出來ることであるが，ここに，その實際上價値のあることを少しばかり述べてみると，辭典には何萬，何十萬といふ語彙が收められてゐるが，實際日常使はれるものは，その中の僅かである．例へば，『萬葉集』の卷一の語彙は 760，卷二は 1108，卷三は 1123 であるが，三卷を通じてみると，總計，2170（すなはち重複したものは 821）であり，

また『土佐日記』(4冊) は957の語彙で書かれてゐるといふ.(以上山田孝雄博士の調べによる). しかも『萬葉集』と『土佐日記』ではまた重複したものがあり, その數はせいぜい2500程度であらうと思はれる.

このやうにして使用價値の高い語を求めるならば, 僅かの語彙によつて, 用を辯じ, それを基礎として, その言語の學習を速かにすることが出來る.

今イギリス語についての代表的な語彙調査とされてゐるソーンダイクの報告によると,

重要單位100位までの語はあらゆる文の50%を占める

500位	82%
1000位	89%
2000位	95%

となつてゐる, すなはち100語で, 既に普通讀物に使用する語彙の半數を, 2000語では95%を占めるから, 結局何萬といふ語は, 殘りの5%のために使はれるのにすぎないといふことになる.

ソーンダイクのものは, 小學校八年を修了した兒童の讀書用語彙を主として

兒童讀物	延語數	625,000語
聖書及び古典文學		3,000,000語
小學校教科書		300,00 語
料理・裁縫・農業・工業・商業に關する讀物		50,000語
新聞		90,000語
書簡		500,000語
合計(種類細別41種)		4,565,000語

から得た20000余の異語數について調査した結果, 1929年に『一萬語表』を發表した. これには固有名詞や略語も一單語とみなし, 派生語は基本語形にふくませてある. ソーンダイクは, その後いろいろ發表のあつた調査研究などを參照して, 資料200種, 延語數5,000,000語を得, これによつて調査した結果, また1932年に『二萬語表』を發表した.

ついでにこれと並んでイギリス語における代表的な調査といはれてゐるホーンの報告について述べると, ホーンは筆記用語彙を主として

商業用書簡（29種）	延語數	1,436,225語
名士・文豪の書簡（17種）		704,837語
私信（8種）		1,433,948語
就職申込及び推薦狀（1種）		1 7,904語
議事錄及び報告書（1種）		126,459語
兒童保護者から教師への斷狀（1種）		30,948語
ある個人の書簡（1種）		235,093語
前に研究に使つた資料（5種）		861,334語
合　計		5,137,000語

から36,373の異語數を得，固有名詞，4文字以下の綴の語，及び最も普通に用ひられる41語を除外して計算し，別の調査から推算して，最後の表に加へて一萬語を選び出したものである．

ソーンダイクとホーンの兩者の調査を比較すると，兩者には，上に述べだやうな選定方法などに差があるのにかかはらず，

ソーンダイク表	ホーン表
1—5000	4830
1—10000	9014

となり，兩者の差は，基本語彙5000については僅かに0.034であり，1000についてみても1割以下である．

またソーンダイク自身も二回の調査において，基本語彙5000の中で，その重要順位を移動すべきものは約350語にすぎなかつたといつてゐる．

だから，方法よろしきを得れば，日本語に對しても，必ず信頼するにたる結果が得られることは明らかである．

本會の委員會によつてここに報告された調査は，後に述べるやうな方法によるものであり，その結果選定された語彙であるが，それは基本語彙としては相當ゆとりのある高次のものであり，これを通して高い文化に接することが出來るものであることも，經過についての中に報告のある通りである．

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

語彙調査の方法

まづ「語彙調査」とは，どんな語がどんなに多く(頻度)，またどんなに廣く(範圍)使はれてゐるかといふことを調べるのである．つまり語彙の使用頻度と使用範圍，言葉をかへると，重要性を知るのがその目的である．その結果として，これを整理し，使用頻度と範圍によつて，選ぶことがおこなはれるので，語彙調査のことを「語彙選擇」と呼ぶこともある．この場合，使用度數や範圍の高次のものを「基本語彙」とよばれる．從つてこれには別に限度はないが，便宜上普通日常使用語彙の90から95%を占める語彙をもつて，基本語彙と名付けられて居り，その數は1000乃至3000位である．

この「基本語彙」と似て非な，しかも世間ではともすると混同されてゐる「基礎語彙」といふものがある．これには，ある語彙で基本的な表現にはどうしても欠くことの出來ないものは，その頻度と範圍の高次なものでも含まれる．すなはちある言語の形成に必要な最少限度の語彙體系である．「基本語彙」が相對的，或は便宜的な標準語彙であるのに對し，これは絶對的な制限語彙である．後者の例としては，イギリス語におけるオグデンの "Basic English (基礎イギリス語)"や，これに示唆を得て考案されたといふ土居光知氏の「基礎日本語」などがある．(いづれも後で述べる．尙それらの創案者も，イギリス語，或は日本語學習者に基本語彙をあたへるもので，これだけを最後まで固執するものではないといつてゐるが，ソーンダイク，ホーンなどの基本語彙に比べると制限性がかなり强い)．

つぎに簡單に語彙調査の方法，すなはち語の頻度と範圍を調べる方法について述べると，普通次ぎの二つの方法があげられる．

その第一は，「主觀的方法」と呼ばれるもので，調査，選擇する者の主觀による方法である．つまり重要と思ふ語彙を適當に採りあげ，ならべるのである．相當教養があり，常識をもつた者がこれにあたり，200語か，300語を選ぶとすれば，選ばれる語彙は大體一致する．例へば，ワタクシ，アナタ，アサ，オホキイ，ヨル，スグなどといつた語彙である．しかし，20語とか，30語，或は逆に2000語，3000語となると，却つて不同になる．

その方法は，漠然と思ひつきのままに並べるのでなく，ハルと共にナツ，アキ，フユを採り，テに對してアシ，メに對してハナ，クチ，ミミとか，ミルといつたやうに聯想によるので，聯想的方法とも呼ばれるが，實際にあたつては，辭典とか，分類語彙によつて，拾ひ出すのが普通である．

さきに述べたオグデンの"Basic English"は，イギリス語の辭典によつて，その意味内容に卽して，同意語を整理して，その代表語850を選び出したものである．ウェストの基本語彙なども主觀的方法によるものである．

これら主觀的方法に對して，社會において現に多く用ひられてゐるもの，すなはち客觀的に見て，重要なものを調べて，選び出す方法がある．これは「客觀的方法」，または數量的方法，或は系統的方法などと呼ばれ，出來るだけ多くの廣い範圍にわたる資料によらなければならない．いかに多くの資料によつても，それが偏つてゐる場合には，その資料が多ければ多い程偏つたものになつて，正しいものが得られないから，數多く多方面にわたることが大切である．

さきにあげたソーンダイクやホーンなどのものは，この客觀的方法によるもので，イギリス語においては，調査語彙の總數，すなはち延語數が500萬以上に及ばなければ信頼する成果は得られないといはれてゐる．

この場合，書かれたもの，讀書語彙に對する調査は割合やさしいが，話されるもの，談話語彙の調査はむづかしい．それも日本語のやうに，兩者の語彙に大きな開きがあり，さらに女性語があり，職業，年齡などによる相違があり，敬語の發達してゐる言語においては特に困難がある．

以上二つの方法について見ると，主觀的方法は，主觀の相違によつて，甲を採り，乙を捨てるために正鵠を缺くことがある．またそのいづれを採り，他を捨てるには客觀的判斷によるよりしかたのない場合が相當ある．これに對して，客觀的方法は，一應公正を期することが出來るやうであるが，資料の範圍が萬遍なく，あらゆる場合を網羅することが容易でないといふ困難がある．

そこで客觀的統計を尊重しながら，(實際的經驗によつて，その不備を補ふといふ「經驗的方法」も唱へられてゐる．實際的經驗は客觀的であるが，それはまた主觀的でもある)．つまり，經驗的方法とは，この兩者をあはせたものである．

カーネギー財團の援助によつて，ソーンダイク，フォーセット，パーマー，ウェストなど，語彙調査に經驗，造詣の深い人たちをもつて構成された基本語彙選定委員會などもこの方法によつてゐる.(これはさきにあげたソーンダイク，ホーンの表を綜合したものを基礎としてゐる).

語彙調査については，尙附說しなければならないことがいろいろあるが，ここには割愛する.

(註) 現在のものとしては，次ぎのものが最も詳しい.
石黑　修：『日本語の世界化』89–159 ページ
石黑　修：基本語彙の調査（『標準語と國語教育』）
語彙調査についての參考書の一部は，別項「參考對照書目」を見て欲しい.

本調査に採用した方法

ここに報告する調査に對して採つた方法も，上に述べた二つの方法を加味したいはば經驗的方法によつた.

第一日本語に對しては，客觀的方法の價値を尊重したいにも，今日までよるべきものがない. 例へば，國民學校の國語教科書のやうなもの，或は少年讀物などによつた調査などの見本的なものもないではないが，これらは基礎とするにはたりない.(一體國語教科書などは，調査語彙によつて編纂さるべきもので，その教科書について語彙調査をするなどは逆である). また基本語彙の調査に兒童讀物によるのは，兒童語彙の調査ならとにかくとして，それは恰度言語の起源や發生を子供の言語について研究するのと同じで，間違ひである.

さうなると，結局委員會自身がその調査をして，これによるより他にない.

しかし，それには尨大な時日と人手を要し，少人數の短時日の調査としては公正を期することがむづかしい. 從つてこれによる誤りを犯さない方が賢明と考へた. 日本語の調査は前にもいつたやうに特に困難である. 讀書語彙と談話語彙，性別，年齡，職業などによる區別があるため，相等同意語，類語の重複がある. だから，日本語の語彙調査は，まづ各部門による調査をおこなつてからでないと結局間に合はせのものになるのは致し方ない.

統計的方法も十分價値があるが，例へば延語數500萬[illegible]の調査の結果を見ても，例を月名についてみると，March（三月），May（五月）は最初の1000語に，February（二月）は 2500—3000語に，他は2000—2500語に出てゐるといつたやうなことが澤山ある．しかし，三月，五月の頻度が特に高く，二月が特に低いといふことは，採つた資料による結果としか思はれない．

（註） ソーンダイクの語彙表には，調査の結果を範圍と頻度によつて500語づゝにわけ，その順位によつて重要さを示してある．

そこで本調査は主觀方法によることとした．そして，その選擇をするために臺本として，まづ辭典を選定し，これから候補語彙を豫選した．この結果を一覽表に作成し，全委員一致で採用しなかつたものを檢討した．これを二回繰り返すかたはら，他の參考資料と比較して，吟味した．そして三回目に擇定した豫選語彙の適否を客觀的に調査するために，普通に書かれてゐるものをこれによつて書換へてみて，どうしても必要なもの，また採用語彙であつて不要と思はれるものを增補削除してた，さらに第三回は採用語彙の意味，用例，同意語，反意語，類語，造語などによつて，過不足を調査した．

かくして，最初各委員の主觀と經驗によつてならべられたものを，つきまぜ，檢討することによつて，全委員一致といふ客觀的な，一つの統計的方法を採り，さらに參考資料により，實際に使用して見て，これに一層客觀性をもたせた．

その結果において，不完全な數字的價値の誇大觀によつて，招致される欠點を補つてあまりある客觀的であると同時に，經驗的である結果を生み出すことに努めた．從つて，本調査は，一見主觀的であるが，結果においては，經驗的な客觀的なものである．數字的でこそないが，各委員の個人的な主觀や經驗による豫選語彙を，委員會によつて，また他の資料によつて，客觀的なものとした．

本調査の經過

次ぎに本調査に實際上採つた方法，過程について概略する．

まづ基本語彙の候補を選擇するために，臺本として辭典を選んだ．はじめ當然想像されるやうに，ある國語辭典について調べかけたが，その辭典が國語辭典としての資格を欠いてゐるといふことを今更のやうに痛感した．それで，他の辭典によることにしたが，どれもこれも大同小異の不完全なものであることを知つた．（本會の語彙調査は元來現存の國語辭典が日本語學習用として，不充分，不備なため，試案的なものを編纂するといふ大きな目的をもつてはじめられたのであることははじめに述べた）．すなはち日常普通の語彙がないといふことである．そこでいろいろ調べた揚句，武信の『新和英大辭典』によることにした．これもなぜ齋藤とか，竹原のにせず，これによつたかといふ理由もあるがここには省く）．

（註）その對照參考には，他の和英辭典，その他についておこなつた．本調査にあたつて和英辭典が日本の國語辭典にくらべて，すぐれてゐることは，國語を外國語として取扱つてあることである．和獨，和佛辭典も對照しようと思つたが，和英辭典とくらべて，その必要がないと思はれたので，中止した．
本調査に對照參考した主な書目は終りにそへた．

各委員がこの辭典を一冊づつもつて，ぜひ採りたいと思ふ語彙，第二次的に採りたいと思ふもの，採否の考慮を要するものといふ三つにわけて，これを並べあげて，それを持ちより，一覽表にして，各委員が一致して第一次的に採用したものは論なく候補とし，少しでも一致しないもの，例へば，甲，乙委員が第一次に，丙，丁，戊委員が第二次としたものについて，一々論議した．それを決定するために，不完全ながらあるいくつかの調査の結果，その他參考資料によつて決定した．ある1語のために1回の會合を費したことは珍しくない．かくして第一回の調査を終つた．もちろんこれによつて，第一次，第二次，疑問の部類が全部決着したわけではない．しかし，とにかく全選擇候補語彙にわたつて檢討して，これをまた一覽表を作成した．そして，その全體を『小學國語讀本』の語彙，その他と對照して，その有無などを比較した．

語彙の第二回の豫選が終ると，これらが實際上の價値——選定語彙の過不足を

検討するために，日本語學習者を對象とする讀書を想定して，いくつかの書物を選び，これを綴つてある語彙と選定語彙とを比較して，ぜひ入用なものの追加とあまり重要でないものの除去とをおこなつた．その方法として，それら書物の全文を選定語彙によつて，書き直し，これを原文と對照して検討した．

今その書物の主なものをあげると次ぎの通りである．

(1) 一般語彙を對照として

イ．國定教科書

小學國語讀本　卷十一，卷十二

高等小學算術書　一年，二年

高等小學修身書　卷二

高等小學地理　卷一，卷二

高等小學國史　上，下

高等小學理科書

2) 談話語彙を對照として

岸田國士：紙風船

菊池寛：女性本願

(3) 文學物：隨筆，評論の語彙を對照として

島崎藤村：飯倉だより

三人の訪問者，芭蕉，樹木の言葉，虎に騎る人，花のさかり，「遊戯」の世界，恥，パツション，忿り，遊戯，婦人の力，涙の力に，愚かな健康，孫の愛，フランスの傳說，前世紀の名殘，クリスマス，熱い料理，誠實，二人の男，老年，婦人の眼ざめ，文學にあらはれたる國民性の一面

志賀直哉：小僧の神樣（「岩波文庫」）

小僧の神樣，城ケ崎にて，好人物の夫婦，焚火

志賀直哉：萬暦赤繪（「岩波文庫」）

山科の記憶，痴情，朝晝晩，月曜日，ジイドと水戸黄門，颱風，荒絹

菊池寛：話の屑籠　昭和十三年分

長谷川如是閑：日本的性格（「岩波新書」）

日本的性格，日本文明について，日本人の心理的特徴，日本民族と傳統的態度，

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com